

# 大雪に対する野菜類の事後対策

平成26年2月20日  
総合農業技術センター

## 1. 野菜全般

- (1) 雪どけ水がほ場に滞水すると湿害の発生が懸念されるので、排水溝を設置しほ場外への排水に努める。
- (2) 作物の入っている施設は、引き続き施設周辺の除雪を行うとともに、雪どけ水の施設内浸透を防ぐ。除雪は、晴天時に換気が行えるようにハウスサイドの除雪を早めに行う。
- (3) 暖房機の空気給排気口の除雪を徹底する。また、暖房機の燃油（重油等）が漏れ出していないか配管等を点検し、漏出が認められた場合は、速やかに回収等の対策を徹底する。
- (4) 積雪や雪の崩落により、停電・漏電が発生する恐れがあるため、電源ケーブルの損傷を点検する。
- (5) 晴天時には、雪の反射等により温度が急激に上昇することがあるので、換気に注意する。
- (6) 曇天時には、周囲の雪の影響などにより昼間の温度が通常より上がりにくいことがあるので、暖房機を運転して、加温、除湿を図る。
- (7) マルハナバチの訪花温度の下限は5～6℃、ミツバチは10～15℃である。湿度が高いと温度があっても活動しない場合があるので、除湿の意味でも暖房機の運転を適宜行う。低温、寡日照が続くとミツバチの活動が鈍くなるので、昼間の温度を20～25℃程度に保つように心がける。
- (8) 露地野菜は凍害等の被害を最小限にするため、できる限り除雪および融雪の促進に努める。
- (9) 過湿条件が続くと病害が発生しやすいので、薬剤の予防散布を晴天時に行うとともに曇雨天が続くときは、くん煙剤等を利用する。

## 2. きゅうり、トマト等の果菜類

- (1) 定植がすでに終了しているハウスが倒壊、損壊した場合は、速やかに修復と保温対策に努める。
- (2) ハウスが被害を受けて定植が遅れる場合は、順化の延長やポット等への仮植を行い、施設の修復を急ぐ。復旧が間に合わない場合は、作型の変更等を行う。
- (3) 作型を遅らせた栽培が困難な場合は、短期的に栽培可能な作物の導入を検討する。
- (4) 除雪、修復後、採光性が急に向上すると、日焼け症状を起こすことがあるので注意する。

### 3. イチゴ

- (1) 修復により保温が可能なハウスでは、できる限り夜温の確保に努める（5℃以上が目標）。
- (2) イチゴは、開花前後の花蕾に低温障害が発生しやすい。このため、加温設備の稼動が困難になったハウスでは、小型ストーブなどを利用して低温障害の回避に努める。この場合、一酸化炭素中毒の恐れもあるので入室時には十分に換気を行う。
- (3) 施設の倒壊により加温が継続できない場合は、ポリフィルムと保温マットなどで二重に保温し、株の損傷を最小限に抑える。ハウスが修復できたら、保温・加温を開始する。
- (4) 凍結などにより株の損傷が著しい場合は、雪どけ後、生育状況を確認して栽培作物の変更等を判断する。

### 4. スイートコーン

#### 【ハウス栽培】

- (1) ハウスが損壊や一部破損などした場合は、トンネルの多重化や保温マットの利用などにより保温に努める。
- (2) 連棟ハウスで倒壊をまぬがれた棟がある場合は、仕切りビニールなどによりサイド面を被覆して使用する。
- (3) ハウスの倒壊によりスイートコーンが下敷きになるなど株の損傷が激しい場合は、トンネル栽培への切換えやまき直しなど行う。

#### 【2重トンネル栽培】

- (1) すでに発芽している場合、できるだけ速やかに換気ができるように除雪を行う。発芽不良、生育のばらつきが大きいようであれば、播き直しを検討する。
- (2) 降雪前に播種が終了しているが、まだ、発芽していない場合は、経過を観察する。温度の低い時期には、発芽までに10～14日程度を要するが、目安日数を過ぎても発芽しない場合には、播き直しを行う。その際は、二重トンネルの内トンネルを除去し、外トンネルのみの一重トンネル栽培として管理する方法もある。
- (3) 播種前の場合には、融雪を促すとともに排水に努め、準備が整い次第播種を行う。

#### 【1重トンネル栽培】

- (1) ほ場の残雪により、準備作業が遅れるおそれがあるので、融雪を促す。
- (2) 融雪後は、排水に努めるとともに、ほ場準備が行えるようになったら、施肥→耕耘→マルチ張り→トンネル設置の作業を速やかに行い、トンネル内の地温上昇を促す。
- (3) 播種は、地温が上昇したことを確認した後に行う。

## 5. ホウレンソウ等葉菜類

- (1) 半倒壊したハウス、トンネルでホウレンソウ等の損傷程度が軽い場合は、株の生育に影響がないように立て直す。倒壊した部位の資材は撤去し、不織布やポリフィルムでトンネルまたはべたがけで被覆を行う。すぐに対応できない場合は、除雪後、露地作に切り替える。
- (2) 株の被害が著しい場合は、ハウスを建て直した後に、播き直しを行う。

## 6. 春レタス

- (1) 育苗中のハウス、トンネルが倒壊し、以後の育苗管理作業が出来ない場合は、速やかに苗を別の場所に移動して育苗を継続する。
- (2) トンネル内で育苗している場合、トンネル周囲の雪を除去し、換気等ができる状態にする。
- (3) 施設や被覆資材を補修して育苗を継続する場合、採光性が急に向上すると日焼け症状を起こすので注意する。また、苗が軟弱徒長にならないように換気に注意する。
- (4) トンネル内の土壌が多湿状態になると、腐敗病、軟腐病、灰色かび病、すそ枯病等の病害が発生しやすくなるので、薬剤で予防散布を行う。

## 7. ほ場の融雪促進方法

- (1) 雪の表面に畑土、もみがらくん炭、堆肥など、有色のものを散布し融雪を早める。現地では下記のような資材の使用事例がある。

畑土（火山灰土）	20～40kg/10a
もみがらくん炭	10～15kg/10a
炭（粉炭）	40～80リットル/10a
完熟堆肥（牛ふん堆肥）	1t/10a
ようりんまたはBMようりん	40～60kg/10a
アズミン	40～60kg/10a

- (2) これから栽培の準備を行うほ場では、トラクターを走行させ、雪面に凹凸のうねをつけ大気と接する表面積を大きくして融雪を促進させる。

※耕土がぬかり、その後の作業に影響があるようなほ場では行わない。

※(1)と(2)の方法を併用すると単独の方法より効果が高まる。